

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障がい者スポーツ演習 Adapted Sport Therapy		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義	選択	(選択・資格課程必修(初級障がい者スポーツ指導員))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤 秀治	本館2F	授業内で指示します		授業中に指示します
授業の概要				
車椅子の操作練習やゴールボールなどを体験し、スポーツを通して学習する。これらを体験することで障がい者スポーツの世界を知り、さらに外部講師の選手との交流を通して、障がい者スポーツに取り組んでいる人々への理解を深める機会とする。				
授業の目標				
①障がい者がスポーツを行う難しさを体験することにより、自らが指導する際の指導方法をより実践的にできるようにする。 ②障がい者がスポーツを行うことによって、新たな生活への喜びになることを対象者に伝えることができるようにする。 ③障がい者スポーツについて調査することで、障がい者へスポーツの楽しさを伝えることができるようにする。				
授業の方法				
体育館、グラウンド佐野日本大学高等学校での実技指導				
学習の成果(学習成果)				
①障がい者スポーツの知識を得ることで、スポーツ指導の際に介助や手助けを自ら率先して行うことができる。 ②障がい者との交流により、体力面での困難さやその困難さを乗り越える精神面に触れることで、障がい者への支援にあたることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	障がい者の理解とスポーツ①車いすで屋内・屋外を移動してみる			
第2回目	障がい者の理解とスポーツ②車いすで素早く動いたり、回転したり、段差を越える			
第3回目	障がい者の理解とスポーツ③車いすでバスケットの体験			
第4回目	障がい者の理解とスポーツ④非利き手でのトレーニング			
第5回目	障がい者の理解とスポーツ⑤(水中運動)			
第6回目	障がい者の理解とスポーツ⑥(水中運動)			

第7回目	障がい者の理解とスポーツ⑦「バスケ（試合）」「卓球」	
第8回目	障がい者の理解とスポーツ⑧「バドミントン」「テニス」	
第9回目	障がいに応じたスポーツの工夫・実施（実技）「シッティングバレーボール」「サウンドテーブルテニス」	
第10回目	障がいに応じたスポーツの工夫・実施（実技）「ゴールボール」「ボッチャ」	
第11回目	障がい者との交流（実技）外部講師との交流	
第12回目	障がい者との交流（実技）外部講師との交流	
第13回目	障がい者スポーツについての調査①	
第14回目	障がい者スポーツについての調査②	
第15回目	障がい者スポーツについての調査の発表	
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読んでおくこと。事後学習：実技の種目名や指導の進め方をノートなどを用いて振り返っておくこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	・協調性をもって授業に臨む姿勢。 ・技能の習得に対して前向きな姿勢。 ・用具の準備・片付けなどに積極的に参加する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	・適切かつ正確な資料を駆使して自らの主張を裏付けているか
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」（財）日本障がい者スポーツ協会編		
履修上の留意点・ルール		
<ul style="list-style-type: none"> ・指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとること ・体育館への食べ物と携帯電話の持ち込みは禁止 ・協調性ある態度でのぞむこと 		